

## モンゴルへの統計支援に当たって

### モンゴル — 大高原の親日国家

金丸 三郎 | Kanemaru Saburo

財統計情報研究開発センター会長



モンゴルは、先祖が蒼い狼と白い牡鹿との間に産まれたという伝説のモンゴル民族で構成される大高原国家である。面積は、日本の約4倍。人口約250余万人（ほぼ新潟県）。飛行機から見えるのは、砂漠と草地で、山も人家も見かけない。気候が寒冷なので農耕に適せず、馬、羊、山羊、牛、駱駝を放牧し、春夏秋冬、草を追って移動しなければならない。自然の制約が誠に酷しい。

驚いたのは、予想以上に国民が親日的なことで、蒙古斑はさることながら人種的な異質感がないこと、日本のODAなどの経済的、技術的支援の成果が著しいこと、日本の経済的発展、ハイテク等がよく知られていること（識字率99%）、日本の文化、自然美などが国民を惹き付けているようで、外国旅行は、米国に次いで日本への希望が多いそうである。日本が国連の常任理事国入りを目指した際、いち早くその支持を打ち出している。

モンゴルについては、英雄チンギス・ハーン、元朝を開いたフビライ・ハーンのことには知っていても、我々は現在の状況をあまり知らない。政治的には、モンゴルと中国は、征し征される関係を繰り返しているが、第2次世界大戦後、ソ連の支配の下に置かれ、蒙古語まで禁止されたが、ソ連邦の崩壊を受けて、1990年代初めに社会主義を放棄し、大統領および国会議員は選挙制となり、民主化の方向に進んでいて、中国には一步距離を置いているようである。地下資源には、比較的恵まれているが、第2次産業が弱いようで、前途は険しいように思われる。

今後モンゴルの社会経済発展の基礎となる政府統計を所管する国家統計局を、微力ではあるが、このたび当財団が支援することになったのは意義深いと考えており、各方面の協力をお願いしたい。また、我々の活動がJICA等による本格的な支援の呼び水となることを期待している。